

ウンカ情報 No. 1

平成22年7月21日
島根県病害虫防除所

..... ウンカ類の飛来状況について

県内では梅雨入り後の6月18日頃から断続的にウンカ類の飛来が確認されています。7月11～15日にかけてはトビイロウンカを含むセジロウンカの大量飛来が確認されました。また、7月17～18日の巡回調査では県西部を中心にセジロウンカ成虫の圃場密度が高まっています。このため、7月下旬にかけてセジロウンカの産卵に伴う産卵傷や下葉の枯れ上がりなどの被害およびその後の幼虫の多発生が予想されます。現地では圃場での発生に注意し、基幹防除の徹底をお願いします。

また、トビイロウンカも同時期に飛来していますので今後の発生に注意してください。

1. 予察灯での捕獲状況

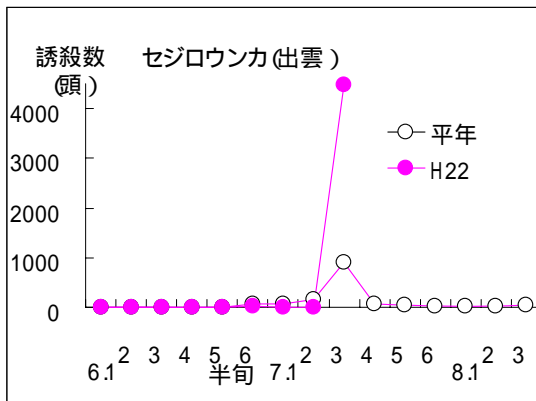


図1. セジロウンカ (出雲市)

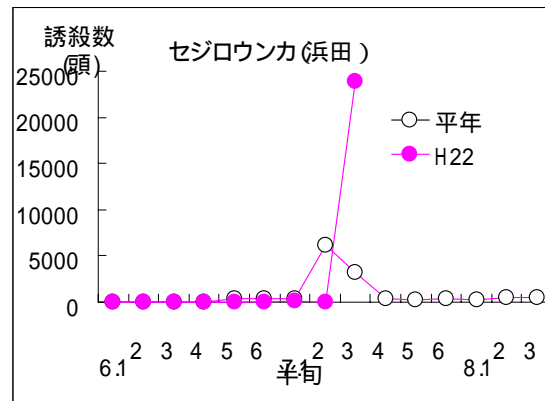


図2. セジロウンカ (浜田市)

2. 圃場での発生状況

7月17～18日にコシヒカリ圃場で25株払い落とし調査を行いました。

セジロウンカ	(全域)	(東部)	(西部)	平年値 (7月下旬)
25株当たり虫数	195.3頭	(37.2頭)	(319.6頭)	23.5頭
発生圃場率	100%	(100%)	(100%)	78.4%
成虫比	67.9%	(69.1%)	(67.7%)	41.3%
トビイロウンカ	(全域)	(東部)	(西部)	平年値 (7月下旬)
25株当たり虫数	0.1頭	(0.05頭)	(0.13頭)	0.13頭
発生圃場率	10.0%	(7.1)	(12.5)	3.9%
成虫比	100%	(100%)	(100%)	25%

セジロウンカは県西部の海岸部を中心に成虫密度の高い圃場が見受けられます。今後、幼虫密度が急激に高まる恐れがあります。

また、トビイロウンカの発生は圃場毎、圃場内でも部分的に大きく異なるので、圃場全体の発生状況を的確に把握し防除の要否を判断してください。

3. 今後の発生予測パターン

7月11日飛来群について実測・平年値を用いた有効積算温度計算から今後の発生予測パターンを作成しました（JPP-NET病害虫発生予測システム）。



図3. セジロウンカの発生予測（7月11日飛来群を由来として計算）

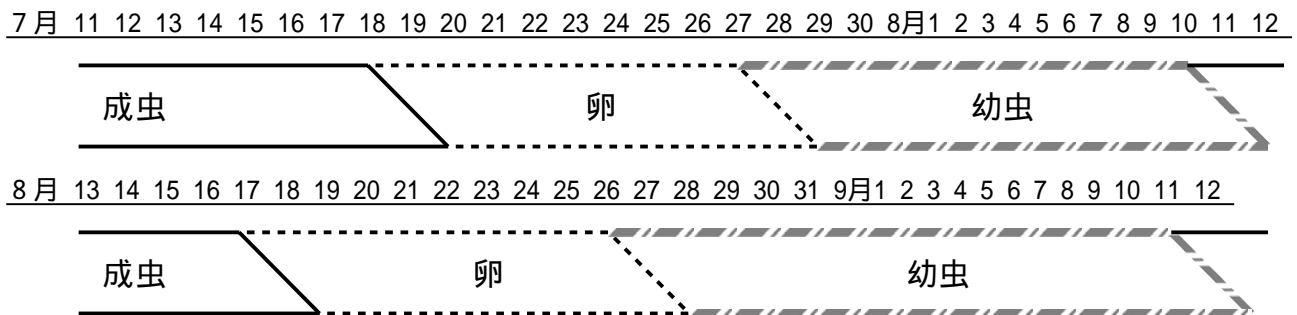


図4. トビロウンカの発生予測（7月11日飛来群を由来として計算）

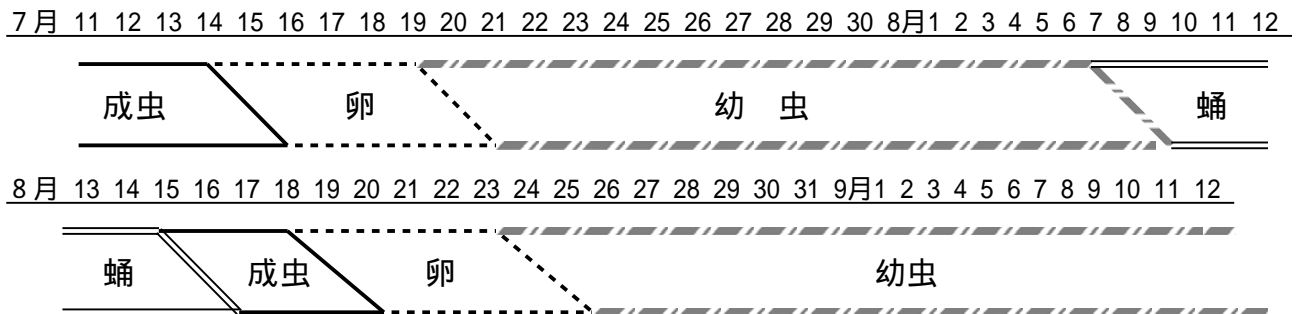


図5. コブノメイガの発生予測（7月11日飛来群を由来として計算）

防除に当たっては、農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。